

祖書拾遺和語記

日性編

上

141
2
199

東 京 圖 書 館			
一 九 二 冊	六 九 號	三 三 函	釋 書 類 和 書 門

019989001-3
141-199

祖書拾遺和語記
日性／編

M16
ABH- 445



明治十六年九月刻成

故

圓智院日性編輯

京都書林

村上勘兵衛

村上勘兵衛校正

祖書拾遺和語記 全二冊

祖書中まゝ和語を用ふるもの、和學に依らばいて、奚ぞ之を解せん、俗間推視して其意を違へるの遺憾を歎き、曩は祖書和語式の著あり、尙其遺れるを集めて、古歌を引き或ハ万葉源氏等の古書に據りて悉く釋したれハ、祖書の一句一字も等閑ならざるを審み知り得べき書なり

祖書拾遺和語記序

佛日西コ入餘暉東嶺コ殘ト寔ナル哉地涌ノ大士ハ寂光ノヒカリヲ和
ラケ末世五濁ノ塵ニ交迹化ノ薩埵ハ圓理ノ證ヲカクシ示同凡夫ノ障
チヤホ則給フコト正像ノ輕キ煩ヒコハ權近ノカロキ染チアタヘ末
法ノ重キ病ニ本門ノ良藥ヲ服セシメ玉フ此上ハ御使コソ大事ナレ
ト彌勒尊ヲラヒノケ本化上行菩薩ニコソ肝要チユツリ給フ然有
リ内無上道ノ御志深ク外ハ不自惜身命ノ御オコナヒ
淺カラフ小權邊本ノ淺深チタリシ成佛不成佛ノ與義チ示シ貴賤トナ
シ長少トナシ御利益ハ東西コミチ南北コアフル然ハアレト惠
ミ給フ處ニハ月震ノ國ヨリワキテ日本チ專ニアハレミ給フ故ニ聖德
太子ノ片岡山ノ言葉ノ末傳教大師ノ我建杣ノ御詠ノアトカタク和國
ノ風俗ニナツラヘ住吉玉津島ノ守チマチキ人丸赤人ノ跡チタツテ古
今万葉ニ心ヲヨセ源氏伊勢物語ノ言葉ニナレ此等チ皆時ノ助トシテ
經釋ノ正理チアソハン給事一百四十八通コノユヘニ鬼神ノヤウナル
男ヲ導キ水ニ繪ガシ如キノ女チモ救ヒ玉フ御アハレミ銀ハ彌堅ク仰

彌高シ。此書ノ法、理ニアラスハ。末代當時ハ諸天善神ノ御力モナシナ
 リ。佛菩薩ノ御利生モ叶ヘカラス。我等凡夫ノ惡業ノ風ハケシケレバ。神
 明利物ノ花ノ匂モ空ク朽ウセ煩悩ノ曇フカケレバ。和光利生ノ日ノ光
 モ徒ニ暮ヌベシ。故予ガ宗此卷々々習フタヘ。茲テ弘通ノ本トシテ代々ノ
 聖此書ニ春ノ林ノ花々。秋ノ山ノ紅葉品々註ナンルンオキ侍リケル。
 予モ其流ヲ汲筆ヲ染侍ケル。然ハアレト井蛙ノ大海ヲハカリ。管チモナ
 テ大空ヲウカレハ。ンモ恐レオホク。祖師ノ御意モ覺東ナリ思侍レバ。筆
 チヌテケル折節。ワキコ有量ノ申ケルハ。信水ノ一滴ヲ異如ノ大海ニ
 添。妙有ノ一塵ヲ經王ノ山内ニ入ンコソ。誠ノ志ナルヘケレトツフヤシ。
 故コ又止事ナクテニ。老ノ涙ヲ硯ニシテ。昔今ノ註ノ中ニ遺レル
 和語ノ言葉ヲ拾集テ二卷トナシ。名ヲ拾遺和語記ト云フ。願クハ久遠ノ
 如來モ冥ニ加被ヲ薰。本化ノ薩埵モ密ニ威力ヲ加ヘ。此集チモキク聖
 ハ現當如意ノ願ヒテカナヘ。本因下種ヲ胸中ニウヘ。カク又寺々ノ園ノ
 中ニハ令法久住ノ松竹シボム事ナク。首題ヲ唱。家ノ内ニハ壽福圓滿
 ノ山高シ。水長カラント云ナラシ。

祖書拾遺和語記目錄上

開目抄上	初葉
開目抄下	七葉
撰時抄上	九葉
撰時抄下	十一葉
報恩抄上	十二葉
報恩抄下	十二葉
本尊問答抄	十三葉
唱法華題目抄	十三葉
一代大意抄	十四葉
妙法比丘尼消息	十四葉
佐渡御勘氣御文	十九葉
阿佛坊消息	二十葉
法蓮抄	二十一葉
兄弟抄	二十一葉

有知弘正法抄
身延山御書

二十二葉ウ
同葉ウ

祖書拾遺和語記上

○開目抄上

一カタクナ、ル父チウヤマヒ

頑癡鈍也。在傳曰不則德義之經爲頑源氏桐壺卷ニ心チナメノカタナ

キコイトイ人ワロウカタクナニナリハツルモ有箒木卷ニカタクナ

ルベキモコソ有頑トユム時ノ事也徒然草ニイミシキ事ナドカタク

ナ、ル人ノソノミチシラヌハソソイロニ神ノコトクニイヘトモミナ

シル人ハ更ニ信モオコサス

一悉有佛性トコソトカザラメトハ

トカサララメト云事也メノトマリノ歌

古今駒ナメタイザ見ニユカン古郷ハ雪トノミコソ花ハ散ラメ

讀千歩人ノ野分ニアヘルアルミノ、ケチ吹ロコソ苦シカルラメ

一嬰兒ノゴトクハカナガリシカ

無墓ハカナキコハ品々有

古今秋風ロカキナス琴ノ音ロサヘハカナク人ノ戀シカルラン

讀人不知

前大納言爲家

忠岑

是ハガナクハ無益ト云心歎

堀河右大臣

後於常ヨリモハカナキ比ノ夕暮ハナクナル人ソ歎ヘラレケル

讀人不知

是ハ世ノツチナラヌアダナル心歎

從三位爲子

於遠夢ヨリモハカナキ物ハ遊糸ノホノガ見ヘシ影ニソ有ケル

是ハアルカナキカソトバカリノ心歎

玉葉物思ヘバハカナキ筆ノスサミヨモ心ニ似タル事ツカハル

是ハ心ニモアラズホレトシタル心歎

無甲斐桐壺卷ヨリ與迄モ卷々ノ内ニカヒナキト云事多シ又桐壺卷

ニイフカヒナシヤトウチノ給ハセテ哀ヲオボシヤルト有

續拾遺イカニセム我身ヲ行五月雨ノ願ム三笠ノ山ツカヒナキ侍從雅有

一サモヤト。左モヤ。サハカリ。サコソ。サヤウ。サノミ。サテモヤ。

皆源氏ニ多キ言也

一ケコノケケ

實々歎勝々歎ソレヨリマサルト云心ナリ故ニ勝ノ字ヲ書ナリ定家

卿ハ實ニサリケルト云事ナゲト遺事ハ珍ト御申ナ

一トノヘカウノヘ

取捨トモカクモ左右トモカクモ若紫卷ニトカウマギラハセ給テト有

空蟬卷ニアサマシクオホヘテトモカクモ思ヒツカスト有又ハカクナ

カラ又カクモト有八雲抄ニトスルモカクスルモト有

後撰世中ハウキ物ナレヤ人コトノトモカクモユヘタルレキ

新古今山端ニ思モイラシ世中ハトテモカクテモアリ明ノ月

一モチアツカヒテオハセシ時

持暖歎桐壺卷ニ車ヨリオナヌベウマドヒ給ハ人々モテワツクヒ聞

ユ。同卷ニチハシ。ヲワシマス。チハシキ。何モ源氏言ナリ徒然草ニ人

ノモチアツカヒグサロイヒアヘル事有

一此等程イミシキ御經

美イミシキ桐壺卷ニイミシキ。出テホメタル言也宇多帝

ノ御イマシメアレバイイミシウ忍テ此ニコチ鴻臚館ニ遣シヨリ又イ

ミシヤチクリ物トモチサケ奉ル又源氏ニ忌心ニ遣處アリ物ノ心

得ヲ以テ可見事肝要也

一 壽量品ヲ取除キセ給ハ珠ノ破タルト月ノ雲ノカ、ルト日ノ蝕タル
カ如シ

葵香ニ袖ノウヘノ玉シダケタランヨリモアサマヤトアリ

千載月ヲユル氷ノ上ニアラフリ必クダタル玉川ノ里 俊成

新古今山端ニ雲ノコヨキル雲ノマハ出テモ月ハ猶待ンタル 道因法師

釋名ニ日月虧曰蝕稍小 侵ノ虧 如蟲食草木之葉

一 水中ノ月ヲ見ルガ如ク 如常

一 カウテカヘリミソハ

角願敷シカウテ。カクテ。源氏ニ多キ言ナリ卷々コアマタアリ

一 水中ノ月ニ實ノ想ヲナシテ或入テ取ントオモヒ或總テ付アツナキ
ト、メソトス

世話ノ話等ニモエソコウガ月ニアヒテナク云

莊乘洗敷ノ殿ニ癡猿捉月而與力云語アリサルガ月ヲトフウトヤ
力ヲツクス事也又義楚六帖ニモ 彌猴捉井月云ヘリ人ノ愚癡ナ事ナ

云ナルヘシ有書ニモマコトナキ物ノ内ニ入タリ
イトイフ。水ノ月影。夢マホロシ。フセヤコチフルハ、キ、等也

一 根ナキ草ノ波ノ上ニ深ヘルカ如シ
深ウキクサ。説文ニ曰ク萍草也無根浮水而生有紫青二種皆葉細對生
長二寸許

新古今 アシカモノ羽風ニナビク萍ノ定ナキ世ヲ誰カ頼マン 大中臣能宣

古今 佗スレバ身ヲ萍ノ根ヲ絶テサソウ水アラハイナントソ思 小町

後撰 流行水コホリスル冬サヘヤ猶萍ノアトハト、メス 讀人不知

或書ニ根モナキ物ノ内ニ入タリウキクサ春ノ淡雪沁アサキ人ノウ
ラミ等ナリ

一 正クツイ指テ

夕貞卷ニ御隨身ツキイテト有徒然草ニムカヒナルアフナノ木ニ法

師ノノボリテ木ノマタニツキイテ物ミルアリ同基ヲウナケルニ御

簾チカ、ゲテ見物アリタソト見ムキタルハ狐人ノ様ニツキナサ

シノグキタルチアレ狐ニトドヨマレテマドイニケコケリ平家ノ竹

三

生島館ニ城經ノ文コ云閻浮提ノ内ニ湖有其中ニ金輪際ニ生出
ル氷精輪ノ山有天女栖所ト云ヘリ則此島ノ御コト也經正明神ノ御
前コツイ居給ヘリ是等ハ近キ物語ナレドモ上代ノハヤル言ノ例ニ
引之奥モ例之見ヨ

一糸ミダレサル相承

新古今春雨ノフリシク比ハ青柳ノ糸ミダレツ、人ソ戀セキ

後朱雀院御歌

御返シ青柳ノ糸ミダレタル此比ハ一スデコロモ思ヒヨラレス

女御藤原生子

又ツカハハ青柳ノ糸ハカタクナヒントモ思ヒソメテ色ハカハラン

後朱雀院御歌

御返シ淺緑深クモアラヌ青柳ハイロカハラントイカ、頼ソ

女御生子

是等ハ皆青柳ノ糸ミダレタル讀歌也此等ノ心ヲ以テ此言ノウラ

糸ミダレサルト被遊也タトヘハ關ノコナタアラバアナタトモ可

有ト云心萬コ有之事也誠ニ糸ミダレト有ハミダレスル可有ト云

心也

一壽命モ日アサシ 日淺也短命ノ事也

一万民ヲナビカス事大風ノ小樹ノ枝ヲ吹ガエトシ平家一清盛出家

入道ス法名ヲハ靜海ト付タマフ出家ノ後榮勇ハ猶不盡トゾ見ヘシ
自人ノ随付キ奉ル事ハ吹風ノ草木ヲナビカス如ク世ノアフゲル事
モ降雨ノ國土ヲウルホスニ同ト有草ノ風ニナヒン事本論語出タリ
一千中無一ト云ヒスカセシモノニスカサレテ
廉スカス 箒卷ニイトサハカリナンアタリコハ誰カハスカサレヨリ侍
ラントルカタナクシナシキキワトイフナリ夕霧卷コカサコウス
カンヤリツト有

一旦シヤスラヒシ程ニ
帆墨ヤスラウヤスラウトハ十六夜ノ月ノ十五夜ノ月ヨリイサ、カチ
ソク出ルニヨリテヤスラウトハ云也ヤスラウハ歌コハイサヨヒト
モイサヨウトモ讀也是ヲ俗ニハヤスラウト云字コハ猶豫トモ不知
夜トモカクナリ

万葉山端ニイサユフ月ヲ出シカト待ツ、ナルニ夜ソ更コケル
古今君ヤコン我ヤ行ントイサヨイニ板戸モサ、スチコケリ
愚草郭公心ツクシノ山ノハニ待スニ出ルイサヨヒノ月

讀人不知
宇治ノ
定玉ヒメ
家

一謀反ナンドノ者ノエトシ

一山ニ山ヲカサチ波ニ波ヲタ、ミ

朝詠ニ山復山水復水三跡詩山上有山歸不得註山上更安山晴出也

風雅富士ノ根チ山ハ上ニカヘリミテ今越カ、ル足柄ノ關 在原行朝

新古今足柄ノ山立カクス霧ノ上ニ雲時タル富士ノ白雪 法師慶運

是等皆景氣ヲ引也 續拾遺

同 都イテシ日數ノミカハ旅衣越行山モカサナリケリ 權大納言 經任

伊勢物語ニ比叡山ヲハタナバカリ重チアゲタラント有百聯鈔解ニ

山ノ外ニ有山ヲ山不盡路中多路無窮

新古今風吹ハ波ヤタ、ムト待ホトニ津田ノ細江ニ浦カクレキヌ 赤人

一難ヲ忍ヒ慈悲ノスレケル事ハオソレキモイタキヌヘテ恐可懷歎

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一當時ノ責ハ堪ベクモナケレトモ

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

一毛寶龜ハアチノ恩ヲリスノス

ウケ此山陰中納言ノ幼少ナルヲアヤマナノヤウコテ海中へ落シ入
レヌ折節浪風ハゲ敷シテ行方モ見ヘザリケリ父餘ノ悲シサニ萬ノ
佛神へ祈シカケ今一度我子ノ姿ヲ見セ給ハハ必一寺ヲ建立セント
云テ思ノアマリコ舟ヲ漕販シ都ニ上ラントスルニ昨日買テ放タル
龜ノ甲ニ我子ヲシテ水中ヨリ浪ノ上ニ出タリケルトナリ畜類ノ
中ニモ別テ龜思テ報ズル事ハ餘者ト違リ萬年ノ命ヲタスル故也
釋尊久遠ヨリ已來三世ノ父又未來永々ノ助ケニ預カル其恩何可忘
耶トツ爲ニ教化ニ載レ之

一 築紂ノゴトトイハレヌレハノラレタリト腹タツナリ 詭言 故
事如常

一 御入滅ナラセ給タラマシカハ
桐壺卷ニシルシノカシナラマシカハトオモホスモイトカナシ
ト有又イトカク思フ給ヘマシカバト有花鳥コハ思ヤウナラマシカ
ハ有源氏ニモアヤナル御チマカヨナノイトイシキイデバヘサミ
ザラマシカハ又源氏コイトナツカシツリカヤカナリコサラマシカ

ハトウナズシ給テ其有徒然草ニ哀ソカ道ナラマシカハ
後拾遺 月影ノ入チオシムモクレンキニ西ニハ山ノナカラマシカハ 宇治忠信女
千載 月影ノ中ニスムナル山ノハチヘタツル雲ノナカラマシカハ 崇徳院 御製
一無量ノ草露ヲ大風ノ吹落ガエトシ
後拾遺 オキアカシ見ツ、詠ムル萩ノ上ノ露フキシタル秋夜風 伊勢大輔
一大風ノ黒雲ヲマキ
或哥ニフカセ 吹風ニタレヨフ空ノウキ雲チイツマデニソノ物トカハ見
一 太虚ニ滿月ノ處スルガエトシ次 生ニ月一書日月讀尊其光彩亞
レ日可以配日而治故亦送之天一月光日ニツケルニモリ天ニ送り玉フテ
今至テ照シ玉フ月光ニテ書籍モムムニヘコツキヨミノ尊ト云也
千載 如日月光明ニ幽冥ノ心ヲヨメル
日ノ光月ノ影トツ照シケルシラキ心ノヤミハレニエトテ 蓮上法師
同神祇月ニミノ神ニ照サバアマ雲ノカ、ルウキ世モハレザラメヤハ 大中臣
新勅撰月ニミノアメコノホリタヤミモナク明クキ世ヲミルカタノサ 爲定朝臣
一晴天ニ日輪ノ懸給ガエトシ 源公忠朝臣

神代卷ニ伊弉諾伊弉册尊共議曰不生天下之主者歟於是共生曰
神一號三照太神此子光華明彩照徹於六合之內二神喜曰吾思雖多未
有若此靈異之兒不宜久留此國自當早送于天而授以天上之事
新古今アマノハラアカチキシ出光コハ何レノスマカサヘ殘ルベキ 菅原太政大臣

周易豐卦宜如日中之盛明廣照無所不及勿愛宜日中宜照天下
水スマハ月影ヲオシムベカラス

新古今石川ヤセミノ小川ノ清ケレハ月モ流チ尋テソスム 鴨長明
昔ノ連歌ニオノツカラナルコトハリナ見コト云前句

千載天原空行月ハヒトツコテヤドラス水ノイカブナカラシ
古今女郎花秋ノ野風ニウチナヒキ心ヒトツタレコエスラン
同吹ガラコ秋ノ草木ノシホルンバム山風チアラト云ラン

葵卷ニ本草モナヒカヌハアルマシキ也
一イカニトナリスルンイフカシトモ申計ナシ
誦也韵會篇勻五篇切疑也増勻疑性也心モトナキ也

宗祇
法性寺入道
前太政大臣
左ノオホヒマ
ウナヤミ
文屋ヤスヒナ

桐壺卷ニ御ツカヒノ行カフホドモナキコナチイフセサチカヤリナ
シ又イフカシフ勾宮卷ニオリクイフカシフオホツカナシ思ヒリタ
レトトフ人モナシ

一卷チナゲスタモトモリツタ法花經ヲ失ヘル御幸卷ニシレカミユ
リフカウツヨウカウカキ給ヘリ縮紙彫深強堅此字ニテ可ニ心得也

一水中ノ月ヲ取トスルガトシ影ヲ躰ト思フガトシイロカクナノ
ミアテ實義モナシ如前

一月ノ出トシテ其躰東山ニカクレテ光リ西山ニ及ベテ諸人月ノ躰ヲ
見ザルガトシ

此御文跡イサヨヒノ月ヲ被遊ト覺タリイサヨヒノ月トハ十六夜ノ
月ノ事也十五夜ノ月ヨリイサカオソク出ルコエリテヤスタウト
ハ云也

万葉山ノハニイサヨフ月ヲ出シカト待ツタルコ夜ヲ深クケル
歌林良材
出ク

一ホト、キスノ初音チオビレタル者ノ一聲キ、タルヤウニ
朝顔卷ニヤハラカニチビレタル物カラ註ニオキナヒレタル心也空

蟬卷ニハナナドモアサヤカナル所ナウチビレヲホホシキトコロ
モミエスイヒタツレハワロキコユレルカタナト有
私曰チチビレタルトハ世話コチナキ子ノチトホケタリト云エト
世流布ノ本コチチビト有ハ惡シ身延山ノ御直筆ノ御本ニモチヒ
レトアリ

後撰 二聲トキクトハナシニ郭公夜フカシメチモサマツル哉 伊勢

一月ノ山ノハコ出タレハ薄雲ノオホヘルガエトシカスカナリ

新古今 今ハトチタノムノ雁モウナワヒス臘月夜ノアケボノ、ソラ 寂蓮法師

文集嘉陵春夜詩不明不暗臘々月有

○開目抄下卷

- 一 一ノ、カニ仰下セシカ 健シカ、カ
- 一 靈山日淺クノ夢ノエト
- 一 靈山手アサニ物深カ、ラストノ義歎
- 一 サスガコ 流石 サスカ 帚木卷ニサスカコウチナキチ夕顔卷ニサス

カニアハレニ。此外卷々ニ此言多シ

一 オヒタ、シク 多チヒタ、

一 海人カ皇帝ニ向奉ガエト

一 サモヤト 左モヤト 如上

一 來會ノ大菩薩モシカノコトシ ヲカノトハコレノト云心也

一 又天台宗ノ人々モヲホラカサレタ

一 此大菩薩ハ彼等コハコルベクモナキフリケニマシマス

ニルベクモノ言桐壺卷ヨリ卷々ニ多シ

續拾遺 イカコセン我身フ行五月雨ニ頼三笠ノ山アカヒナキ 侍從雅有

同 雪霜チイタイク道ニツカヘキチ六十三笠ノ山コフリスル 中臣祐茂

一 今マイリノ者ノ主君ニオモヒツカス 如上卷

一 晴天ニ日輪ノカ、ルガエト

一 白面ニ照ノアルコト

一 一華ヲ見チ春チ推セロ

一 花開而天下皆春ト云心ナルベク一花トハ花類多クニ梅チ指也

梅ハ十一月十二月ヨリ雪中ニ咲物ナル程ニ梅ガ一ツンサケハ天下
 草木皆春ノ氣ヲ受ル也徐師川ガ詩ニ廿四番花信風ト作ルモ花ノサ
 ク次第ニ廿四番有中ニ梅花ニ始テ棟花ニ終ルトナリ山谷ガ水仙花
 ノ詩ニモ山禁ハ是弟梅ヲアロトスル也山禁ハ水仙ヲ指テ云也實ニ
 梅ハ春風廿四番ノ第一ニ開故ニ兄ト云也歌ニ難波津ニサクヤコノ
 華冬ニモリ今チ春ベト咲ヤコノ華此花トモルモ梅事也此歌事ノ
 外縁由有古今ノ序註等ヲ可見又梅ヲ好文木ト云ハ昔唐晋王ニ哀帝
 ト云アリ此王ノ物ノ本ヲヨミクマヘバ春ニテナケレハ何時モユ
 度ニ梅ガ開タルニ依テ好文木ト云也昔丞相魏紫ノダサイフコサセ
 ノノ内ニコナフカハ句ヒチコセヨ梅華アルヲナシトテ春ヲワスル
 ナト讀ケレハ梅ハ其儘都ヨリツクワヘ飛行ト也天神ノ縁起ニ有山
 谷十五卷曰王充道送水仙花五枝欣然會心爲之作詠凌波仙子生塵襪
 水上輕盈步微月是誰招此斷腸魂一種作寒花寄愁絕合香體素欲傾
 城山禁是弟梅是兄坐對眞成被花惱出門一咲大江橫
 一 道ヲフミアケタルナリ

伊勢物語ニツラベノフミアケタルツイヒヤ有

古今三吉野ノ山ノ白雪フミ分テ入ニ人ノチトツンモセス 忠岑

一 當世チ移レ給明鏡也カタミヒ見ヘレ

記念 信 桐壺卷ニタヒカノ御カタミニトテカハルユウモヤトノ

新古今ニ六條攝政カクレ侍テ後ウヘチキテ侍ケル牡丹ノサキテ侍ケ

ルチオリテ女房ノモトヨリツカハシテ侍ケレバ

カタミトテ見レハナゲキノフカミ草何中々ノ句ヒ成ラン 太宰大貳 重家

一 オホツカナナシ

無費束 不審 若菜卷ニチボツカナクテヤミナシノミコソ口惜ケ

レ句宮卷ニチボツカナクテ誰ニトハマシイカニシテハシメモハテモ

ラヌ我身ソ

詞花ニオホツカナ替ヤシニシアマノ川年ニ一度渡ルセナレバ 大中臣 能宣朝臣

一 イタクノ大悪人ナラザル者ノ

甚傷痛何レモ萬葉ニ見ヘタリ源氏ニイタク思ワビタルチ又イト

イタウ世チハハカリ又イタウコウシ給ヒコケレハ花鳥ニコウシト
ハ困字ナルベシクタビレハチタルト云心也徒然草コイタウコソコ
ウシニコタノ平家ニ痛ナ歎カセ給ヒ候ソト慰サメ給フ
一ツタナキ者ノナラヒハ約束セシ事チマコトノ時ハワスル、ナルヘン
新續古 アスカ川水モマサラテカハルコソ人ノ心ノウキ世也ケレ 祝部成光
同 飛鳥川カハルツラサノ憂セヨリヤカリ涙イ淵ト成スル 前中納言爲秀
續千載 トニカクニ替ツヤスキアスカ川淵瀬ヤ人ノ心ナルラン 大江貞重
後撰 アスカ川淵瀬ニ替ル心トハミナカミシモノ人モイフメリ 伊勢

○撰時抄上

一時鳥ハ春チオシリ雞ノ曉チマツ
後拾遺 四月ツイヌチノ日ヨメル

櫻色コソメシ衣チヌキカヘテ山郭公ケフヨリツマツ 和泉式部

同 四月一日ホト、ギス待心チヨメル

古今 キノフマデチシヨシ花ハ忘ラレテ今日ハマタル、郭公哉 藤原明衡朝臣

三月ツエモリノ惜春心チ人々ヨミ侍ケル

我宿ノ池ノ藤ナミサコキコケリ山郭公イツカキナカン 讀人不知
後拾遺 郭公ナカスハナカスイカニシテ行春チ又モクハヘン 大中臣
新古今 曉ノタツケ鳥コソ哀ナルナカキ眠チ思フマクラン 式子内親王

山谷詩 晨雞催不起擁被聽松風

一 焦タル種ノ花サキ菓ナリ

月清 種シアノバ佛ノ身トモ成ヌベシ岩ヨモ松ハ生ケル物チ 後京極攝政
玉葉 種クナテ佛ノ道ニキヲハレン人チモ捨ヌ法トコソ聞 法成寺入道攝
拾玉 ナシケレト一枝チラン櫻花サテソ佛ノ種ト成ベキ 政太政大臣
大僧正慈鏡

一 百歳ノ叟ノ廿五ノ人ノ子トナルカトウダガヒ

金葉 涌出品ノ心チヨメル

拾玉 タラチチハシロカミナガラ何ナレバコノ眉白キ糸ト成ナン 權僧正永縁

堀河次朝露チ久シキホド、思フマニ佛ノ兄ト身ハナリヨケリ 慈鏡和尙

一 口スサミトシ

口号クチスサミ夕顔卷ニヨカラヌワラツベノクチスサミヨナルベ

キナメリ

一竊ニサ、ヤキ

耳旨サ、メク萬葉ニサ、ヤク同シ心也。陰、桐壺卷ニ人ノヨカド

ノタメシマデヒキイデ、サ、メキナゲキケリ夕顔卷ニ又カクサ、

メキナゲキ給フ

一華嚴法相ニモチコツカレ

嗚呼、チカシキ事ヲ云義有徒然草ニチココモミヘ人ニモイヒケタレ

此チコハ世話ニ云シレモノナンド云義歎イヒケタレハイヒケサル

、心也。御幸卷ニ御モテナシアラシユツケテオコカマシウモヤナド

トモオホシ箒木卷ニココ、ロハエナガラハナノワタリチコメキアカ

タリナス

一天台宗ニモワラハレナン

笑、箒木卷ニ人シノス思イテワラヒモセラレ

徒然草ニ目見合ワラヒナドシテト有又皆チナワクワラヒノ、ル

イトラウガハレ。ラウカハレハ亂レカハレキ事也

一打ヌイテ云ク

拔衆棘ニ微ニ人論

○撰時抄下

如開目抄上

一國土安穩ナルベキ事ナンメリト

ナメリトハナリケリト云事也源氏ニオホレヌベキ御ケシキナメリ

ト有又ケシキチシラスル人ノナキナメリ又アケクレツトメ給ヤウ

ナメリト又オホスベカメリ又クルシゲナルワザナメリト又御ナヤ

ラヒナメリト

國土安穩ノ心

新古今天下メグム草木ノメモハルカギリシラレヌ御世ノ末々、式子内親王

一但佛トゾニ唱タラマシカハ地獄ニハ墮ザラマシ

此出葉開目抄上卷ノイト

○報恩抄上

一衆木ノ頂ニ月ノヤトルガビトク

日本紀神代次生三月一神一其光彩亞日可以配日而治故亦送之乎天一如

此草木ハ日月ノ陰陽ノ氣ヲ受テ生長スル故ニ何ノ草木モ無ニ宿處一
歌ニ影ヤドス露ノコスガノ秋クレハ月ソスミケル小野ノシノ原
コスガトハゴロリト云事也便ノ字チカク露ダニサケハ便ニツテ月
スムツ

所ニ推計

- 一道理ノオストコロ
- 一瞿伽梨モノナラス
- 一貫之ガ士左日記云海賊モノナラス
- 一カイルイヨシキ
- 一モタスベキコアラチバ
- 一黙止 徒然草ニ何ノ事カ去難カラヌ世俗ノモダシガタキニ隨テ是
- 一チ必ズトセバ願モオホク身モクルシク心ノ暇モナシ
- 一恐口チ先ト眉チアケ
- 一眼チ瞋カシ

松風卷ニハ眼瞋チハハナブキトカケリ則チ發眼ト書也蜂ノサハソ
トスル時イカリテ蜂チ吹拂眼遣チ云也松風卷ニニシキカホチハナ
如開目抄上

トウナアカメツハハナブキイハト有

一手チアゲ拍子チタハキ

古文喜雨亭ニ野夫并雨物作者手チタハイテ雨チ喜アトツ徒然草ニ

コトナルヤウモナカリケリト手チ打テウラウ人アリ或書ニ以鉄作

門限鬼拍手而笑 拍手ト云ニ付可知事アリ本神代ニ有ナガケレハ

略之重ヲ尋コ

一カウテアルナラハ

角カ

夕霧卷ニマシテカウアルマシキコトニ桐壺卷ニカウウチスラレテ

○報恩抄下

一或近習ニ付或キリ人ニツキ或キリ女房ニツキ或後家尼御前ニ屬無

盡ノ讒言チ作セシ

昔ノ源氏ナドニ云ハカクギリコ髪チ切テ今時ノ尼ノ如ク根カ

ラハ剃ザル也故ニ切尼トモ云也然ハ尼ト唯今ノ御文ノキリ人キリ

女房トハ何か替ルヤト云コ尤モ尼ハキリ人ト替事ハナケレトモ受

戒出家レテ袈裟チカケ衣チキルト不同敷猶追可考

一 破身捨命 不破サテコソ候へ 左

一 イタウ日遊チ惜シトハオホサ、リケルラメ
如開一目抄下巻

○ 本尊問答抄

一 評論出来セシカハイタウノ無ニ相違 同上

一 或又其義チモ辨ヘスカノ故カラクシテ

同ノ義チ云ヘハ辛而

古今 ナリテルヤ難波ノミツニ燒鹽ノカラクモ我ハ老ニケルカナ 國人不知

新勅撰 朝夕ニ歎キチスマニ燒鹽ハ辛ク煙ニチクシクシカナ 國信

新古今 スマノ浦ニ艇ノコリツム瀧鹽木ノカラクモ下ニモハ渡ル哉 藤原清正

源氏 コカラウシテケフハ日ノケシキモナナレリ又ワタドノコツク

イリテカラウシテケフハ日ノケシキモナナレリ又ワタドノコツク

一 漢土ニモ知之人ナク日本ニモアヤシメヌヤテ既ニ四百餘年ノ星霜

ナ送レリ 不令怪アヤシム不令異アヤシム 桐壺卷ニアヤシトミタラマツリ給ヘルナ

一 十年廿年モサ、ウヘキツカシ

可支 支持心也

一口スサミニアラク申候

口号如上

一 アナハ、スシテ

不味アチニス 神代卷上ニ無道ト云ト同事也 謂天下ニ道ノスタレタル時

ハ万民苦勞シテ食ノ味モ覺ヘスホドニカウ 書事尤也 今コ、ハ不吟

味ノ事ナルベシヤ

一 法華經ノ御名チ聞事ハオボロケニモ難有事也 譯和ニ見諸障外ノ心

新後拾春ノ夜ノ霞ヤ空ニ晴スラノオボロケナラヌ月ノサヤケキ 源兼朝臣

遺 少縁オボロケ小詠 同上

詞花 古ヘチコフル涙コシラサレテオボロコ見ユル秋ノ夜ノ月 前大納言公任

千載 オボロケノ色トヤ人ノ思ラノ小倉ノ山チ照ス紅葉ハ 道命法師

一 水ハ和ナル物ナレバ石山ナンドノ強キ物ニサ、ヘラレテ水ノサキ

ヒルム故ニ彼此ヘ行也

一 念佛ノ佛事チヒマ無ク行ヒ法華經チハツヤク不唱不供養

且一切字句聞へたる如し也又タカナラズト云心も有道惠
カ物語ニモ見共ノ里ニ久ク候事常ノ習ト存計也三井寺ニ候フ事
ツヤクウケ給リテヨハスト書タリ又徒然草ニ木葉ヲカキノケタレ
ドツヤク物モ見へズ處ヲガヒタルニヤ平家ノ一卷ニモツヤク太政
入道孫共不知ト有
○唱法華題目抄

一名号ハイミシコソソ
如レ上

往生不遂上忍道ニ可墮之由承ルハユ、シキ事ニコソ侍
忌敷イマクシキ事也又能事ニモ遺言也去程ニ善惡ニ通事又ニウナ
ル事ニモ遺言也桐壺卷ニユ、シキ身ニ侍レハカクテオハシマスモ
イマクシウカクシケナクトノ給

引歌ニユ、シトアイトモ今ハカヒモナシウキテハ風ニツケテヤミナン

○一代大意抄
此卷ノ心ハ忌敷ト云意敷又次ニモイトニ、シウオボシタリト有

一諸菩薩ノカラクソ修シタリシ

○妙法比丘尼消息
一重病ニカ、リ
辛勞也若菜看一人ノタメサヘカラキコトアリカセト徒然草ニカラ
キ命マウケテ久シクヤミホタリケリ註ニ辛苦也ト具如上本尋問答抄

詞花ニ 病オモク成侍ケル比雪ノフルヲ見テヨメル

オボツカナマタ見ヌ遺テ死出ノ山雪ニ分テ越ントスタソ 真通法師

一身ヤツソ

チノツカフナルハヤツソ也身ナガラ熊トナスハヤツソ也字替也蓋
垢 弊 衰 穢 伊勢物語ニムカシコトナル事ナクテアマナレ
人有ケリカクナチヤツソシタレド物ヤニカシカリケント有重病ノ事ハ
新古今ニ

ヤマヒコシツミサヒサシクモリサテ侍ケルガマクニ
シクナリテ内ニマイリテ右大辨公忠謝人ニ侍ケルニアヒテ
又アサテバカリマイルベキニ申テマカリ出ニケルマ、ニ
ヤマヒオモクナリテカギリニ侍ケレバ公忠朝臣ニツカハレ
ケル

悔シシツ後ニ違ント却ケルケフチカギリト云マレ物チ藤原季純

一不淨ニマトワサレテ

徒然草ニ年モヤウクタク病ニモマツワレ妻子ナハモテナシテ

成ニ面ニ成ニ變ニ

平家妓王段ニ世ノ人モテナス事不斜

一様々ニタハカル故ニ本ハ上郎ナレハトアスカサレテ

賺ニ方便ニ媒ニ平簪ニ他計ニ持計ニ空蟬巻ニサリスベヤオリサミ

テタイメンスベクヨバカレントノ給ヒワタレハト有

一如何カ案モナク可申出ヤスタキ程ニ

佇ニ心ニ柳卷ニトカウウチナゲキヤスタヒナキサリ出給ヘル御ケハヒ

イト心ニクシク夕顔巻ニイサユウ月トアリ是モヤスタウ心也

或集ニ大江山カゲユク道ノ休ラヒニバシ鳴タツウツセミノコヘ

續拾遺ニ郭公雲ノイツクコヤスタヒテ明カタナカキ月ニ鳴ラフ

一四壁ハ破テ雨ハツトモ如ク

或集ニ賤ノ男ガ外面ノ葦刈ハテ、何シガ冬ニ成ニケル哉

一雪ハ内ニ積ル

後撰ニユルナラハ月トツミマシ我宿ノ庭シロクヘコフリツモル雪 讀人不知

同ニ年フカクフリツム雪ニミル時ハ越ノ白根ニスム心ナスル 同

同ニ玉ズレノアヨメノマヨク吹風ノサムクハソヘタインソ思チ 同

隨葉集ニ板間ヨリ殿モリシ我宿ハスキ亂レタル玉カトツミル 同

一葦チキ笠チサシテ居テシカ共人モ不見

續千載ニ世チ捨テ人ニモ見ヘスシラレテハ我コソ今ハカクレミノナレ 光俊朝臣

堀川院ニマスケヨキ笠ノカリテノワサミノチ打キテノミヤ過渡ルベキ 公實

拾遺ニカクシ葦カクシカサチモエテシ哉キタリト人ニシラレザルベク 平公誠

古今ニ雨ニヨリ田葺ノ島チ今日ニケドナニハ隠ヌ物コソ有ケル 貫之

後撰ニサレテコト思ヒシ物チ三笠山カヒナク雨ノモリコケル哉 讀人不知

拾遺ニ名ノミシテ山ハミカサモナカケリアサ日夕日ノサスタ云カモ 貫之

高祖師初チカサモリノ觀音チ一見被遊シ時讀玉フト傳聞侍ケル

ウキニフル涙ノ雨ニヌレシト今日カサモリチミヨキツル哉 高祖師御奇

錦織段ニ江南ノ詩アリ面白ケレハ繁ケレハ略レ之

一 白布ヲ如天引

金葉 天川コレヤ流ノ末ナラフ空ヨリサツル布引ノ漉 讀人不知

續後撰 天川雲ノミオヨリ行水ノアマリテオツル布引ノ漉 從二位賴氏

震旦山川記 天台山註高一万八千丈周回八百里又有飛泉垂流千仞似

布又深布山註乃天台山之別岫有瀑布垂流千丈聲若雷響觀者爲之震

棹 李白詩日照高樓生紫煙遙看白布掛長川飛漉直下三千尺疑是

銀河落九天 不及斷

一 深山ナレハ晝モ日ヲ不奉見夜モ月ヲ詠スル事ナシ

一 峯ニハハカウノ猿カマヒソツク

喧 宣都山川記曰峽中猿鳴行者歌曰巴東三峽猿鳴長悲猿鳴至

三聲聞者淚沾衣 又關中記曰三峽山者漢城之東山也猿多報任吏

之送迎者皆留此山相飲言離別猿猴集來而俱飲鳴泣甚似哀 故爲

琴曲名猿猴曲亦曰三峽山曲三峽山トハ巴峽巫峽明月峽也コノ三峽

双テ有之ニ江水一廻リツ、流ル、ニヨリテ姿ヲ巴ノ字ニ似タリ依

テ巴江ト云峽トハ山ノ間ニ水アル處ヲ云也山夾水曰峽ト出タリ白

氏文集ニモアリ

一 谷ニハ波ノ下ナル音ハ鼓ヲ打

拾遺 音ハ聞鼓ノ漉ヲウチミシバタ、山川ノナルコト有ケル

一 冬雪ニ道ヲ塞ギ

千載 跡モタレシナリモ雪ニ埋レテ歸ル山チコマトヒヌル哉

玉葉 今日マデハ雪フミ分テ歸山コレヨリ後ヤ道モ絶ナシ

一 夏草ニケリ

新古今 夏草ハケリニケリナ玉銜ノ道行人モ結フハカリコ

續拾遺 石上布留ノ中道今サラコフミ分カタクンケル夏草

一 鹿ノ遠音恨シク

千載 山里ノ曉方ノ鹿ノ音ハ夜半ノ哀ノカギリナリケリ

同 サビシサチ何ニタトヘンチシカ鳴深山ノ里ノ明方ノ空

續古今 夜チコメテ明石ノセトチ漉出レバ遙ニ送ル小男鹿ノ聲

思ヒガチ妻トフ鹿ノヌレケラレワレトチシラノ山ノ甲

一 鹿ノ鳴ク音カマヒソツク

讀人不知

右近大將 實房

觀憲法師

藤原元真

前大納言 資季

法印慈圓

惟宗廣旨

俊惠法師

喧カマヒソシ幻卷ニツソト我ガナキクフス夏ノ日チカゴトガマ
シキ虫ノ聲哉此虫ハ蟬ノ事也カエトハ人ノナクコカコツケ也又契
ノ心モアリ常夏卷ニ蟬ノコエナドモイトクルシ

古歌 大江山カケユクミチノ休ラヒコシバシ鳴タツウツセミノ聲

新古今 鳴蟬ノ聲モ涼シキ夕暮ニ秋チカケタル森ノ下露

同 秋チカケキ氣色ノ杜ニナク蟬ノ涙ノ露ヤ下葉染ラン

氣色ノ杜ハ大隅ノ名所也

一訪人無レハ難ニ命續

古哥 人トハテムグラハ門チサセレヒ音スルモノハ風ナリケリ

難ニ命續ニ付テ貧苦ノ事載侍

詞花 大原ヤママスミカマモ習ハチバ我宿ノミツ煙チユタル

是ハ瓦邏法師ガ伏見ノ修理大夫俊繩朝臣ノモトヘ物乞コヤルトナ

讀歌也錦緋段ニ二月江南花滿枝他郷寒食遠堪悲貧家往々無烟火不

獨明朝爲ニ介推有二月寒食ノ時分ハ花昔開ソ古郷ニ居タラハ可上塚

今ハ他郷ニ居テ古郷間遠程ニ悲ツ介之推ガ火ニテ死スル故ニ依

二條院撰

攝政大政大臣

瓦邏法師

テ寒食禁火ソ今我ハ介推ガ爲ナクチドモ貧ナ程ニ自無烟火ヲ不知妙
經功徳者未來永々如此貧苦ニアイ法身ノ惠命モ絶ベキニ忝モ唱題
ノ行人壽命無數劫ノ文ノエトク利如裸者得衣ノ文ノエトク信行ノ
衣ヤウラシサイナソノ衣キテ奉衣樂應衣翁ガチトモ聞マシキ事難
有レ可信

一手ハツナ、キテ栢ノ葉ナ風ノ吹タルニ似カ

悼ツナ、ク勻會號勻悼徒到切懼也傷也詩中心是悼毛使動也正義曰哀

悼者心神震動故爲動也手習卷ニコノ尼君笛ノチチホノカニ聞ツケ

タリケレバサスガコメデ、出キタリコ、カンコウナハブキアサ

マシキツナ、キエヘコナナカクムカレノコトナドモカケタイハス

御幸卷ニ御コエノワナマシモチコガマンケレドキルコトドモナレ

ハイト哀ナリ夕顔卷ニハカナレヤト御手モツナ、カル、

一尼御前等ハハシチツカヒテ天奏チナス

ハシハ帛敷帛ナラハ帛帛ナレベシキコト也孟子樂惠王下篇注
ニモ帛幣也ト出タリ例セバ夕顔卷ノエトレカレニイロノスケ神無

月朔日比ニシタル女房ノシララシトテ「伊與介ハ心コトヨサセ給マ
空輝ヘ
タウチノコモワザトシタマヒテコトヤカニチカセキマナレルシ
アフギチホクセテサナドワヤトガマシクテカノユウチキモツカ
ワス

哥 逢マデノカタミバカリトミ程ニヒタスラ袖ノ朽コケル哉

夫ハ伊與介内儀兩人ト下レコ源氏ヨリハナムケテ遺給フニササテ

ソヘテ遺給也スサハ幣帛也昔ハ進物遺ニササテ花ヤ葉ナド色能

作リ添テ遺ス也今時ノ下々ノ昆布ヤノシ添テ遺ス一色ハセス

トク也

後撰 秋タビコマカリケル人コスサチ紅葉ノ枝ニツケテツカハケケル

同 秋深ク旅行人ノ手向コハモミテ増ルニササナカリケリ

一月ニ向ヒ進セヌレハ人ノ心アシカル

慮 嬌如遊 宏 思餘タル牀也

新古今 心コソアシカレコケル秋ノ夜ノフカキ月ヲ獨ミシヨリ

源道濟

同 アシカレテチヌ夜ノ慶ノツモル送月ニハラハス床ノサムシロ 俊成女
箒木卷 コマコトコハカワルベキコトトモ思給ヘズナガラヒゴロフ
ルマアセウシコモツガハサズアケガレマカリアリシ又アコガレヒ
同 事也

一 藤ノ盛ナルカ松ニ懸テ

後撰 紫ノ藤江ノ岸ノ松カ枝ニコセテカヘラヌ波ノカ、レニル 太上天皇

後拾遺 スミノ江ノ松ノミドリモ紫ノ色ニツカ、ルキシノ藤ナミ 藤人シラス

詞花 問スマチウラ紫ニ咲藤ノナコトヲ松ニカ、リソメケン 俊子内親正

千載 年フレドカハラヌ松チ頼テヤカ、リソメケン他ノ藤ナミ 大炊御門 大造 右大臣

一 ツタノカキニ懸レルカ

伊勢物語 ニユキノアスルガノ國ニイタリヌウツノ山ニイタリテ我

イラントスル道ハイトクテウホソキニヨクカヘテハシゲリモノ心

ホソクスハロナルメチミル事ト思フ

一 基ヲ見ハ有驗共音モ不聞

新古今 ミナノシコヘマカリケル野中ニメダツキマナレルツカノ侍ケ

ルヲトハセ侍ケルハコレナン中將ノハカト申トコトヘクハ
中將トハイツレノ人アトト侍ケルハ實方朝臣ノ事トナン
申ケルコト冬ノ事コト霜ガレノス、キホノ見ヘツヨリナオ
リフシ物ガナシクオホヘ侍リケレバモメ
朽モセヌ其名計ナドレメチキテ枯野ノ薄形見ニツミル
西行法師
定家郷母身マカリテ後秋ノコロ基所ナガキ堂コトマリナ
侍ケル

同
マレニシレ夜半モ悲キ松風ヲ絶スヤ昔ノ下コ聞ラン
俊成

一死出山三途河チハ難トカ越玉フラン只獨歎キ玉フラン

新古今 太宰大貳高遠身アカリテ後アル人ノ夢

古里へ行人モカナ告ヤランシラ山路ニ迷フ

後撰 シテノ山ヲドルノモコヘナ、ン憂世間ニナカヘリナン 讀人不知

新古今 同行ナリケル人ウナツトキハカナクナリニケレハ思イテ、

古郷ヲコフル涙ヤ獨行友ナキアマノミナシハノ露
前大僧正慈圓

新續古今 カリ三途死出山チモ佛ノ救玉フ心チ

アラキ海殿キ山中ナレハ妙ナル音ハヘメテザリケリ
俊成郷

續後 沈ベキ人チカナシト思フニハ淵ヲ瀕ニナス物ニツ有ケル
堀川右大臣

新古今 久我内大臣春ノコロウセテ侍ケル年ノ秋土御門内大臣中將
侍ケル時ツカハシケル

秋深キ寝覺ニイカレ思ヒ出ルハカナク見ヘシ春ノ夜ノ夢
般富門院大輔

返シ 見シ夢ヲ忘ル、時ハナケレハ秋ノチツメハゲニソ悲シキ
土御門内大臣

一冬ノ風ノ音信ル、音ニ付テモ
新古今 父秀宗身マカリテ秋寄懐舊ト云事ヲ讀ル

露ナゲ今ハカタミノ藤衣アデニモ袖チ吹嵐カナ
藤原秀能

一トワリチ繪ニカケハ我夫チハトラチヒソチマシ

トワリトハ昔ヨリ世話ニウハナリノ事也ト云傳フル也順ガ和名ニ

後妻ト書ケリ未考

○佐渡御勘氣御文
一上不

地神第四代卷、彦火火出見、海神女璽玉姫、娶海ノ宮ニ三年住
玉ヲサントモ郷ヲ思ヒ玉ノ情有リ、璽玉姫其父ニ贈テ郷還玉ノ時
璽玉天孫ニ曰ス、妾已ニ娠産事久カラズ、妾必風濤急峻日以海濱ニ到
ラノ、請我爲産室ヲ作テ相待玉へ出見、尊宮ニ還テ産室ヲ作リ上テ尊
玉ノコ未ダ首尾セズ、葺合セ玉ハザルコトハヤ産玉ノ故ニ、御名ヲ法波
激武鷗草葺不合尊ト曰ス也、名聞テ云ハ法トハ天神ノ子孫ナル故ツ
波激ハ海邊ニ産玉ノ故ツ、武ハホムル心也、鷗草ハ産室ヲ鶉ノ羽ヲ
フツト又草ヲフツト雨殿也、未葺ヲホセズ不首尾ノ時生レ玉ノ故ニ
御名ヲカシ申也、地神第五ノ御神ア

一 雪雨積ヲ消期無

風雅 高根ニハケヌカ上ニヤ積ルラン富士ノスソノケサノ初雪 内大臣
續千載ケフ立富士高根ニ降雪ハ思ノ外ニキエヌツ有ケル 相 摸

一 裝打着

後撰 降雪ニミノシロ衣打キツ、春來コケリトサドロカレヌル 教行朝臣
如ニ妙法比丘尼消息

一 大風ノ草ヲヒカヌカ如シ

上ノ風吹ハナヒカザルヘキヤノ如シ、裝卷ニモテカワツカシ給
ヘルサマ木草モナヒカヌハ有マシキ也

○ 阿佛坊消息

一月待程ノ手スサミト思キ 手号アツサヒ
新古今 右大將通房身マカリテ後ナラヒスサヒテ侍ケルアフヤ見出
シテヨミ侍ケル

○ 法華抄

一 法華經ニテシノコロニ申候ツレモ未タイフカシク候 訝疑也如開目抄
手スサヒノハカナキ跡トミシカヒナガキ形見ニ成ケル哉 土御門右大臣

○ 法蓮抄

一 草木モ風ニ随テシヨメシコエモカタキノ我ヲセムルカト
平家六道段ニ澳ニ釣スル船ヲハ敵ノ船カト肝ヲ消シ遠キ松ニ白キ
鷺ノ群入テ見テハ源氏ノ旗カト心ヲ盡スト有私云昔符堅カ百萬ノ
英雄ヲヒキイシモ八公山ノ草木ニチソレテ敵ノ兵カトアヤマル
一 冬殊ニ風ハケシ雪フカシ 險ハケシ

新古今 神無月木々ノコノ葉ハ散ハテ、庭ニツ風ノ音ハ聞ユル 前大僧正覺忠

後撰 ケサノ嵐寒クモアルカナ足引ノ山カキ曇リ雪ツ降ラン 讀人不知

金葉 衣手ニユビノ浦風サヘクテフタカミ山ニ雪フリヨケリ 源頼綱

千載 秋ノウチ哀シラセシ風ノ音ノハゲンサソフル冬ハキヨケリ 前參議教長

新古今 フレハカクウキノミ増ル世チシラテ荒タル庭ニ積ル初雪 紫式部

千載 夜チコメテ谷ノ扉ノ風寒ミカチテツレルキ嶺ノ初雪 崇徳院御製

一衣薄ク食モトボシ 新古今 マハラナル柴ノ巷ニ旅寢シテ時雨ニスル、小夜衣哉 白河院御哥

同 白山ニ年フル雪ヤツモルラン夜ハニカタシク袂サユナリ 前大納言公任

平家六道一段ニ平相國ノ女天子ノ國母ト成給ト云ヘ西海ヘ落行玉

フ跡チ書時波ノ上コナ日チ暮ル船ノ中ニテ夜チ明ス買物モナケレ

ハ供御備ル事モナク○是又餓鬼道ノ苦シトコソ覺侍レト大原入

段ニ何事モ皆替果ヌル浮世ナレバ自情チカケ可奉哉ノ縁モ皆枯果

離育可奉共不覺

一スミカハチ花カレカヤオイシゲリ

樓栖 蕙尾花 荊葢

新古今 我宿ノチバナカ末ノ白露ノオキ日ヨリソ秋風モフク 中納言家持

同 ウラカル、淺茅カ原ノカルカヤノミソテ物チ思フ比哉 坂上是則

御法卷 ヲモセハ消ツシスヘキトニカタニ思ヒ航ル、カレカヤノ露

伊勢物語 ニツタカヘテハケケリモノ心ホソソト有

一雨モリ風モツマラス 笠モリ 憂ロフハ涙ノ雨ニスレソト今日笠モリチヨキツル哉 高祖御哥

平家女院御出家段ニ庭ニ草深ク軒ニハ茂茂レリ雨風勘ハウモナシ

一聞者マツラコサニル風ノチト

新古今 枕ニモ袖ニモ涙ツラ、キタムスハス夢チトフ嵐哉 攝政大臣

一朝暮ニ眼ニ遮ル者ハ遠近ノ道チ埋ム雪也

妙法比丘尼消息ノ如シ朝暮チアケシントニ遠近チオナコナトニ

ムヘキ歎

○兄弟抄

一鹿チホウレ犬ハ 異本ニ吠ト有次チニ出ス

犬ノハ吠ノ字ハ時年也虎狼ハ嗥也師子ハ吼也一往如此此外略

嗚呼嗚呼此ハ何モ通習也

一此世ノアリサマ厭トモモイトハレシ

舉動行狀有様

新古今 アマユナラント思ヒタケル人ノトメ侍ケレバ 和泉式部

カクバカリ愛ヲ忍テナガラヘバ是ヨリ増ル物モコソ思ヘ 寂蓮法師

同 身ノウサチ思ヒ知ズハイカヤセン厭ヒナガラモ猶スグス哉 前大僧正慈圓

同 山里コ問ヒクル人ノ言クサハ此スマヒコソウラヤマケレ 體人不知

古今 イカナラン岩ホノ中コスマハカハ世ノウキ事ノ聞ヘコサラン 寂蓮法師

新古今 ソムキヲモ猶ウキ物ハ世也ケリ身ヲハナレタル心ナラナバ

一サカンナリシ花ノ大風ニナルガ如ク

新古今 寂勝四天王院ノサクラハ粉ノカハリコトヒキシクナリヨシ

チソノ木トシフリテ風ニクフレタルモシキヤ侍リカハチソ

コドモモオホセテコト木ニシノ跡ニ移リ裁キセシ時マカリ

ヲ見侍レハ数多ノ年年暮ニ春マテ立ナレケル事ナド思出

テ讀侍ケル

ナレクテ見レハ名殘ノ春ヅトモナトシテ河ノ花ノ下カケ 藤原雅經

一今度テウシトナシテ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

一強盛ニハカミサシタユム心ナカレ 又ハケミト有本モ

ニ空ノ月ホレヲウコカシ時ナラズ雪ヲフラヒイカヅナチサツガシ

タルタメシアガリタル世ニハ有ケル源氏ノ抄ニモ上代ノ事ト出タリ

一天台傳教ハ先ニ生レ給ヘリ今ニ後ハ又ノクベキ也

姓。送。征。ノシトハ遠ノ心也浮舟卷ニイトイモシカラントイヒキ

タル心地オソロンアヤコクコトノクト有 所勞也

一ナコノソラウニシナリタリ

○有智弘正法抄

一佛ノ御前コマイリ様々コタイハウ申セシカハ身ノ病忽ニイニ 退望歎

○身延山御書

一ナハヤナル神

千勢破神 千早振神 千葉破神 是ハ久敷年經ト云事ナルチ古

色々ノ義理ヲ付テ云事アノドモ皆惡ト随分ノ歌道者達被申也

一メシニ

惠。御。雨露ハ草木ヲ惠ニ主君ハ百姓ヲ惠ニ親兄ハ子弟ヲ惠ニ師ハ

弟子ヲ惠ニ是皆道也

玉葉 霜カレノ春日ノ野邊ノ草モ葉モ神ノ惠ニ又サカハケリ

新拾遺 コトハリノクガハス道チ春日山神ノメシト聞モタノモシ

一垂

續拾遺 跡タレテ幾代コナリ大神風ヤイス、ノ川ノ古キ流

新後拾遺 マキモクノ玉ヤノ御代ハ跡タレテ宮居舊スルイス、川上

一天下

續古今 天降神ノ香山今モシ君ガマコトミルモ賢キ

詞花 天降神ノ香山今モシ君ガマコトミルモ賢キ

一賤男賤女

詞花 女共ノ澤ニ若菜摘チ見テモメル

新古今 秋ノ田ニイホサスシツノトマチアラミ月トロコヤ守明スラソ

一哀チ催ス秋ノシレハ草ノ庵ニ露深ク

桐。靈。卷。コワカ宮ノイトオボツカナクツニケキ中ニスシ給モ必ク

ルウオホサルハチ

御法ノ秋吹ハイカナル風ノ色ナレハ身ニムバカリ哀ナルラン

御法歌秋風コシバシトマラス露ノ世ヲ誰カ草葉ノ上トノミ見

同引歌曉ノ露ハ枕ニオキケルチ草葉ノ上ト何オモヒケン

伊勢物我袖ハ草ノ菫コアラチハルルハ露ノヤドリ也ケリ

一軒ニエカクサ、ガコノ糸玉ヲ貫ク

古今 秋ノ野ニオシ白露ハ玉ナレヤツラヌキカシル蛛ノ糸筋 文屋アサヤス

後拾遺 サ、カコノスカクアサヤノ末ニトニミダレタヌケハ白露ノ玉 藤原長能

一峰ノ紅葉イツシカ色深シ

千載 立田河オチタモ水コウカフ也名ニ流レタル峰ノ紅葉ハ 津守國良

後拾遺 日チヘツ、深シ成行モミヤ葉ノ色コウツ秋ノホドハシラル、 藤原經衡

金葉 色深キミ山カシレノモミチハチ嵐ノ風ノチヨリコソミル 太宰大貳 長實卿女

一ツヘク倦フカケヒノ水ニ影ヲ移ハ

徒然草 コ苦ノホソ道チフミツケテ心ホソクスミナシタル菫アリオ 葉コウツモル、カケ楯ノツツナラテ露ヲトナフ物ナシ

詞花 思ヒヤレカケ楯ノ水ノクヘクニ成行ホドノ心ホソキナ 高階章行女

新勅 立田川ナラス紅葉ノ影ニヘテ紅コニル瀬々ノ白波 獨政大政大臣

一名ニ負龍田川ノミナ上モカクヤト疑レ

大和國ノ名所也古老傳曰昔此所ニ雷神降テ上ル事ヲ得ス童子ト成

共此農夫ガ田ニ夕立時々々稲花成熟シ侍ナリ其後此産子暇

乞テ小龍ト成テ天ニ昇ル故ニ龍田ト名シル也水上ハ三室山也

古今 神ナヒノ三室ノ岸ヤツルラン立田ノ川ノ水ノコソレ 人麻呂

同 立田川紅葉ハ流ル神ナヒノ三室ノ山ニ時雨フルラン 人麻呂

後拾遺 アラシ吹三室ノ山ノ紅葉ハ、立田ノ川ノ錦ナリケリ 能因法師

一露立テ嵐ハゲシキ折々モ入レ山新チコリ

新古今 山里ハ世ノウキヨリハ住任ス事ノ外ナル嶺ノ嵐ニ 宜秋門院 丹後

夕嵐アラシ今ハト山ヤ思フ幾曉ノチサメナリシチ 定宗

金葉 法ノ爲荷薪コ事ニセテヤカテ憂世チコソソ果ヌル 藤西上人

拾遺 法華經チワガエシ事ハ薪コリ葉ツミ水扱仕テツエレ 行基

新古今 シキミツム山路ノ露ニヌレニケリ曉オキノ墨染ノ袖 小侍従

玉葉 薪トリ嶺ノ木ノミナ求テアゲガタキ法ハキリハジメケル 俊成

樵蘇 轉信ガ傳ニ出タリ禮記曲禮ニハ有負薪憂出タリ孟子ヨハ探

薪ノ憂ト書タリ

一 深谷ロ下リセリツツミ

セリト云草ハ女萎ノ事カトニ女萎ト書テハエシトニエコトニメリシ

トコト同音花スハウヨサシ草ノ水邊ニ有也或ハ芹ヲ云トイヘル六

帖ニハ芹ノ外コ別ニエクテアゲタレハ芹ニハアツザル歟

君ガ爲山田ノ澤ニ惠具ツト雪ケノ水ニモスソヌラツ

若菜ヲ仲實朝臣ノモトヘツカハスト

返ニ 必サ深キミ谷ロツツミタメアイシニユツリテアツ根芹カ 俊頼朝臣

俊頼ハニエトニメリ返ニハチセリトニメリ同物ト聞タリイニト

云ハカク事アツカナドノヤウナ物ナリ女萎トカケルヲ万葉ニ

ハセリトニメリ

一 河ノ流レ早キ岩瀬ニ菜ヲヌキ 行基ノ歌

拾遺 法華經ニ我ニ事ハ薪コリ菜摘水汲ツカヘテツエシ

菜摘川ハ吉野ニアリ夏笑トモ夏身トモ書也 湯原王

新古今 吉野ナルナツミノ川ノ河ヨドニ鴨ツ鳴ナル山カケニシテ

一 タモトシホレテホソツブニ思

新初撰 ホシ佗ヌ蝶ノカレモコ盤タレテ我カラヌル、袖ノ浦波 侍従具定母

續後撰 干佗ヌアマンノカレモコソホタレテ我カラヌル、袖ノ浦波 皇太后宮大夫 俊成

續千載 サニタレニ煙々ヘテモアマ人ノ猶シホタル、袖ノ浦波 祝部成賢

一 丸カ詠シケン和歌浦ニモソホソレンツ、世ヲ渡リケンアマモカシ

ヤトソ思ヒヤラレ、

本歌 未考唯義引ニ被遊歟

一 ツツト愛身ノアリサマヲ案ルニ

樋々嗟々舉動行狀

新古今 タラチチノイサメシ物ヲツツト詠レタメニ同人モナシ 和泉式部

同 ツツト思ヘバヤスキ世中チ心トナケリ我身ナリケリ 荒木田長延

同 ソムキテモ猶愛物ハ世也ケリ身ヲハナシタル必ナラチハ 寂遠
同 身ノ愛ヲ思ヒ知ズハイカイセシ厭ヒナカラモ猶過ス哉 寂遠
同 思ヒ出ル事ヲ悲キ世中ハ空行雲ノハチチシラチハ 諸人シラス

一 軒バチ傳フアサカホノ日影チマタヌ程ゾカシ

讀人シラス

檀 蘇 木 槿 若
新古今 オキテ見ント思ヒシ程ニ枯ニケリ露ヨリケナル朝貞ノ花

會補好忠

同 山ガツノカキホコ咲ル朝カホハシノメナラヂアフモモナ

貫之

百官ハ論語憲問篇ニ出タリ天官佐王治者ナリ官位ノ者出仕シテ居
處ナレバ殿ヲ又百數ト云也百官ト云ハバトヲ百ニハ限ラヌ大數
ヲ云也万乘ハ天子ノ御事也孟子曰万乘之國註云万乘謂天子也ト出

一 刹利モ須陀モカハラヌタメニコテ 高岳親王
寶物集 イフナラシナラシノソコニ入スレハセナリモヌタメ替ラザリケリ

如常

一 親類モ來救フ事ナシ
止觀四丁七無所持帖○弘四三丁四具ニアリ往見

新古今 故郷チコフルナミタヤヒトト行友ナキ山路ニヒトリマドフト

一天有ラハ比翼ノ鳥地住連理枝ヲラント月日ヲ送り年ヲ重テ契シ妻

子モ訪事アラシヤ
此御文ハ本長恨歌ヨリ出玉フ曰在天願作比翼鳥在地願作連理枝

一 伽陀ノ歌法華經ヲ我得シ○ 行基ノ歌也

一 トフノスカコモモ
堀川院 玉篋ニ履ダハシル音キケハイトイフサユルトフノスカコモモ 公實

水鳥ノツラ、ノ枕隙モナシムヘサヘケラシトフノスカコモモ 大納言經信
君マツトトフノスカコモモニダコチテノミ明ス夜ヲ重ル 前參議教長

トフハアミメノフガトチ有ト又フチキル事トチ有トノ説アリ追可尋

一トワリノキヤキトナヤウニ驚キ
 トハリト有本モアリトワリナラハ如上聞傳ヘタルウハナリノ事ナ
 ルベシ又トハリナラハ外張ノ女ノ事タルベシ是ハ内裏ノ御殿ノ口
 ヲ掛玉フハ世俗ノ暖簾ノ如キ物ヲ外張ト云也是躰ヲ奉ケテロシ
 スル役者ヲトバリノ女ト云也此言ハ本催馬樂ヨリ出タリ其催馬樂
 トハ馬ヲ催スト云事也今時俗ニ馬子ノ小歌如キノ言也此躰ノ事モ
 面白キ言アレバ昔ハ召上ラレテ樂ノ言ニ被遊タルニ近衛關白長
 山嶽ヨリ直ニ某ニ被仰聞候也催馬樂云ソヒヘンハトハリナヤウチ
 モタレタルチホ君キマセムコニセシ簿木巻コトバリ丁モイカニ
 シハサルカタノコ、ロモナクナハメキマセキアルシナラシノ給ヘ
 バトアリ
 一水ハ瀾ドモ又スミ月ハ雲カクセドモ又ハル、
 詞花 圓融院ノ御トキホリ川ノ院ニニタビ行幸セサセ給ヒケルニ
 コメル
 水上ノサタメラケレハ君カ代ニニタビスメルホリ川ノ水
 曾禰好忠

古今 大空ヲテリ行月シ消ケレバ雲カクセヒカリケナクモ
 ケナクハキヘザルトノ心也
 一此事ヲ諸道ノ者チコソキワラキシ程
 嗚呼如上徒然草ニ人ナトノ有時爰許コイヒツケタルコトシサ物ノ
 名ナド心得タルトチカタハシイヒカハシ目見アハセワラヒナド
 チ心シラヌ人ニ心得ズオモハスル事世ナレヌロカラヌ人ノカナラ
 ス有事ナリトアリ

祖書拾遺和語記上終

141
2
199

